

平成 27 年 10 月 07 日
タレンツ・トーキョー実行委員会
(東京フィルメックス)

映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2015」講師発表

映画分野における人材育成事業として実施している「タレンツ・トーキョー」は、映画監督やプロデューサーを目指すアジアからの参加者に、世界で活躍していくためのノウハウや国際的なネットワークを構築する機会を提供するものです。世界的に実績のある「ベルリン国際映画祭」と提携して実施しています(*)。

近年、世界の主要な映画祭において、修了生たちの活躍がめざましい本プロジェクト、今年 11 月 23 日～28 日までの 6 日間、「Me against the world」をテーマに実施します。

このたび下記のとおりメイン講師を決定しましたので、お知らせいたします。

メイン講師 (プロフィールは別紙のとおり)

パク・キヨン (映画監督)

ステファン・ホル (プロデューサー)

エミリー・ジョルジュ (ワールド・セールス)

<開催概要>

名称：Talents Tokyo 2015 / タレンツ・トーキョー 2015 (略称：タレンツ・トーキョー)

会期：平成 27 (2015) 年 11 月 23 日 (月・祝) ～11 月 28 日 (土)

会場：有楽町朝日ホール他

公式サイト：<http://talents-tokyo.jp>

主催：東京都、アーツカウンシル東京 (公益財団法人東京都歴史文化財団)、
タレンツ・トーキョー実行委員会 (東京フィルメックス)、国際交流基金アジアセンター

提携：ベルリナーレ・タレンツ (ベルリン国際映画祭)

協力：東京ドイツ文化センター

事業に関する問合せ先：実行委員会事務局 TEL: 03-3560-6393 talents@talents-tokyo.jp

(*本事業は、平成 22 年度は「ネクスト・マスターズ・トーキョー」、翌 23 年度から 25 年度は「タレント・キャンパス・トーキョー」、昨年度より「タレンツ・トーキョー」の名称で実施しています。)



別紙 1、タレント・トーキョー2015 メイン講師陣プロフィール



パク・キョン（映画監督・プロデューサー）

1961年、韓国生まれ。87年、韓国国立映画アカデミーを卒業後、すぐに映画監督・プロデューサーとしてのキャリアをスタートさせる。ソウルオリンピックの公式ドキュメンタリーなど、数々の作品にかかわった後、『あの島へ行きたい』（1993年 パク・クァンス監督）をプロデュース。イギリスのチャンネル4との合作になるシリーズの韓国編、『シッキム Cinema on the Road』（1995年 チャン・ソヌ監督）や、『チャン・ソヌ変奏曲』（2000年 トニー・レイズ監督）などをプロデュース。監督として手がけた作品には1997年『モーターカクタス』や2001年『ラクダ(たち)』などがあり、特に『ラクダ(たち)』は第16回フribール国際映画祭でグランプリとシナリオ賞を受賞、世界各国の国際映画祭に出品され話題となる。韓国国立映画アカデミーの学院長を9年務め、その間長編映画とアニメーションの制作プログラムを開始、当初は賛否が分かれたものの、大きな成功を収め、同校を世界的レベルの映画学校へと押し上げる。新たな人材育成にも力を入れており、釜山国際映画祭と共同でアジアフィルムアカデミーを立ち上げる。アカデミーでは3週間の映画制作ワークショップを行い、アジアの主要な映画人材育成プログラムに成長する。2007年にはアジアの新鋭映画製作者のさらなる発掘と支援を目指し、シネマデジタルソウル映画祭(CinDi)を創設、わずか数年あまりでデジタル映画やアジアの新たな才能を紹介する重要なプラットフォームの一つとなる。2012年より檀国大学校専門大学院映画コンテンツ研究科教授として教鞭を執る。

ステファン・ホル（プロデューサー）

1996年、ドイツでアジア映画の配給会社「ラピッド・アイ・ムービーズ」を設立、映画配給やプロデュース、音楽など、手がける分野は多岐に渡り、活動範囲も世界へと広がっている。主に扱う作品はインド映画を含むアジア映画や、世界中の傑出した作品たち。ここ数年は一般的な劇場映画から、芸術的水準の高い映画を取り扱うよう積極的に取り組んでいる。彼は押井守、北野武、三池崇史などの日本人監督の映画や、パク・チャヌク、キム・ギドク

監督などの名立たるアジアの映画監督やインド映画をヨーロッパに広めた、ヨーロッパを活動拠点とする数少ない貴重なプロデューサー。近年の配給作品に、『罪の手ざわり』（ジャ・ジャンクー）、『Cemetery of Splendour(英題)』（アピチャップン・ウィーラセタクン）、『ザ・トライブ』（ミロ斯拉ヴ・スラボシュピツキー）、『ハッピー・ニュー・イヤー』（ファラー・カーン）など。また最近、映画に関わる音楽や美術にも注目しており、近年手がけたものでは、『シュガーマン 奇跡に愛された男』（マリク・ベンジェルール監督）や『ニック・ケイヴ 20,000 デイズ・オン・アース』（ジェーン・ポラード、イェイン・フォーサイス監督）など。

エミリー・ジョルジュ（ワールド・セールス「メメント・フィルムズ・インターナショナル」マネージング・ディレクター）

2003年、映画配給と制作を行う「メメント・フィルムズ・インターナショナル」を設立。同社では自らマネージング・ディレクターを務め、国際的に評価の高い監督たちによるアート映画を送り出し、支援してきた。これまで手がけた作品には2006年ベネツィア国際映画祭グランプリを受賞した『長江哀歌』（ジャ・ジャンクー監督）、2008年カンヌ国際映画祭でパルムドールを受賞した『パリ20区、僕たちのクラス』（ローラン・カンテ監督）、2011年ベルリン国際映画祭で金熊賞、銀熊賞を受賞し、2012年アカデミー外国語映画賞受賞などにより注目を浴びたイラン映画『別離』（アスガー・ファルハディ監督）、2014年カンヌ国際映画祭パルムドール受賞作『冬の轍』（ヌリ・ビルゲ・ジェイラン監督）などがある。

ジョルジュは「Next Master Tokyo」として開催した2010年の本事業の第1回目に講師として参加。そのとき参加者だったアンソニー・チェンと出会い、チェンの『イロイロ ぬくもりの記憶』の企画に助言した。そして後に完成作をジョルジュ本人がワールド・セールスを手掛けることになり、カンヌ映画祭監督週間でプレミア上映後、最終日にはカメラ・ドールを受賞した。

また、2009年よりフランスのセールス・エージェント協会、ADEFの共同協会長を務めており、自身の制作会社「シネファクチュール」において、プロデュース活動も行っている。さきごろ、芸術文化勲章シュヴァリエを授与された。

また、ベルリン国際映画祭（ベルリナーレ・タレント）より、事業担当者も参加いたします。